

絶滅危惧種の水生植物 次世代に継承を ガシャモク どう保全

つがる



木造高生 沼で水質調査や採取

つがる市内の沼で見つけた絶滅危惧種の水生植物「ガシャモク」の育成、保全活動などに取り組んでいる木造高校(大瀬雅生校長)の生徒が12日、現地調査を行い、生息する沼で水質調査やガシャモクの採取などに取り組んだ。

(吉田和華子)

ガシャモクは2017年に市内の沼で弘前大学農学生命科学部附属白神自然環境研究センターと新潟大学教育学部、津軽植物の会の合同チームの調査によって発見され、現在は同市と北九州市にのみ自生しているとされる。同センターは生育地保全や自然環境を次世代に引き継ぐことを目的とした活動を昨年から同校の生徒と取り組んでいる。

この日は同センターの山岸洋貴助教と弘前大学教育学部の勝川健三准教授が講師を務め、生徒9人が2班に分かれて実際に生息するガシャモクを採取する生徒ら

沼の水質を調べ、ガシャモクを採取して観察などを行った。

3年の三橋恵理さん(18)は「つがる市と北九州市にしか生息していないと聞いていたが、どのような条件がそろって生えるのかが気になる。学校でも育てているが、自然の方がのびのびとしているように見えた」と話した。

同校では8月にも同様の現地調査を行う予定。

上記の画像は、当該ページに限り「陸奥新報」が利用を許諾したものです。無断転載はできません。